

「大型製材工場における木材乾燥と流通販売システム」視察研修について

1 はじめに

当管内では、人工乾燥材の生産体制を整備するため、管内の製材工場を対象に意見交換会を数回開催し、現状や課題等について議論してきました。

また、現在岩手型復興住宅などの住宅建築において、乾燥材の安定供給が求められていることから、二戸農林振興センター林務室では、2月14~15日に一般社団法人岩手県建築士事務所協会等との共催で管内の製材工場、森林組合を対象に、参加者14名により標記視察研修を開催しました。



2 栃木県矢板市「株トーセン」について

株トーセンは昭和39年の創業で、主な製品は、人工乾燥した柱材や羽柄材等で、ムク材に加え集成材も生産しており、年間原木消費量29万m³。また、同社では「母船式木流システム」という独自の生産、販売システムを取り入れており、自社グループ工場以外にも、他社の製材工場からもグリーンの製材品を受け入れ、人工乾燥及び仕上げ加工の後、住宅メーカー等に販売しています。

乾燥機の熱源は、同社から発生する製材端材

やバーク等を燃料とした木質バイオマスボイラーを利用。乾燥材の端材等が利用できることから、冬場でもバークを燃料として使用可能ですが、ボイラーの燃焼状況を確認しながら配合しなければないため、燃料投入は人力になるとのことでした。

3 まとめ

同社では「本格的に乾燥材の生産を始めてから10年になるが、今になってやっと軌道に乗ってきた。様々な試行錯誤やノウハウの蓄積に相当の時間を要するため、今から乾燥を始めても技術面、コスト面で追いつくのは難しいのではないか。」との話もありました。

参加した製材工場の経営者からは、木質バイオマス燃料を活用した木材乾燥や、共同運営による木材乾燥施設の設置について必要性を感じたとのことでした。

今後、今回の視察を参考に、数社が共同で利用する乾燥施設や、木質バイオマスの利用等について、さらに具体的に検討をすすめていく予定です。

